

海外自治体幹部交流協力セミナー2015（ソウル事務所管内） 地方交流事業概要

12月1日（火）

（1）長崎県表敬訪問

長崎県文化観光国際部次長からの歓迎挨拶のあと、参加者団長からの挨拶が行われた。両名とも、テーマにある「朝鮮通信使」をキーワードに、日韓交流のさらなる発展を願った挨拶となった。



長崎県表敬訪問

（2）行政説明：長崎県概要、施策等

長崎県職員から長崎県の概要説明のほか、長崎県が行う海外との交流事業を中心に説明が行われた。参加者全員の所属が国際関係の部署であることから、国際交流に関して具体的な内容の質問が多く、参加者各々の自治体で取り組んでいる交流事業と比較しながらの意見交換が行われた。

12月2日（水）

（1）視察：出島

江戸幕府がポルトガル人によるキリスト教の布教を禁止するために築いた人工の島で、鎖国令のあと平戸のオランダ商館が移転してきたことから、当時のオランダ人の生活様式や貿易の歴史等について長崎市職員から説明がされた。

（2）視察：大浦天主堂

幕末の開国に伴って造成された外国人居留地に、1865年に建立された日本最古の現存するキリスト教建築物である大浦天主堂を視察した。長崎県におけるキリスト教の歴史について、長崎県職員から説明がされた。



出島にてオランダ商館を視察参加者達



大浦天主堂

（3）視察：グラバー園

長崎港を望む小高い丘の外国人居留地跡の敷地に、英国人商人グラバーなどの旧宅を核にして、市内に点在していた6つの洋館を移築復元しているグラバー園を視察した。

(4) 行政説明：朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産登録に向けた取組

対馬と韓国の交流、朝鮮通信使の歴史や朝鮮通信使を活かした交流事業について、長崎県職員から説明がされた。参加者からは、文化に関する EXPO を行ってみてはどうかなどの提案や今後の朝鮮通信使にちなんだ交流の展望についての質問など、積極的な意見交換が行われた。



旧グラバー宅前にて記念撮影



意見交換会の様子

(5) 視察：長崎原爆資料館

被爆の惨状をはじめ、原爆が投下されるに至った経緯、核兵器開発の歴史、平和希求などを展示した長崎原爆資料館を視察した。

12月3日(木)

(1) 行政説明：対馬市及び朝鮮通信使緑地連絡協議会の取組

対馬市における国際交流や雨森芳洲（対馬藩朝鮮方左役）が説いたとされる“誠心の交隣”を基本姿勢に朝鮮通信使に関わりのある緑地で結成された朝鮮通信使緑地連絡協議会の取組についてなど対馬市職員から説明がされた。

(2) 意見交換会

長崎県職員及び対馬市職員と参加者間で行われた意見交換会では、朝鮮通信使の取組をゆかりのある自治体だけで行うのではなく、国にもっと働きかけ国をあげてのプロジェクトを行ってみてはどうかという提案もあり、今後の朝鮮通信使を活かした日韓交流について様々な意見が寄せられた。

また、現在の日韓両国の政府間関係が必ずしも万全とは言いがたい状況であるからこそ、民間レベルの交流が大切であるという意見も多く、本セミナーを契機に、各参加者の出身自治体と長崎県との交流を検討していきたいという発言もあり、本セミナーの目的の1つである韓国の地方自治体とセミナー受入自治体とのネットワーク構築の推進が図られた。

12月4日(金) 視察：対馬歴史民俗資料館、李王家・宗伯爵家御結婚奉祝記念碑、万松院等

対馬宗家当主宗武志と朝鮮国王・大韓帝国皇帝高宗の王女（皇女）徳恵翁主の成婚記念碑である李王家・宗武志御結婚奉祝記念碑や、対馬藩第2代藩主の宗義成が建立した寺院の万松院など、朝鮮通信使をはじめとした韓国にゆかりある地を視察した。

参加者のほとんどの出身自治体が朝鮮通信使と関わりがあまり深くないため、朝鮮通信使の歴史や背景などの説明に熱心に耳を傾けていた。



万松院の前にて説明を聞く参加者